

年頭の御挨拶

辰巳会会長 鈴木 治雄

新年明けましておめでとうございます。
平成十八年（二〇〇六年）は明るい年である様に願いたいものです。

平成の年代になって良い年だったなと思われた年は殆どなかったと言っても過言ではないと思います。戦後の教育の付けがまわって来た年代で、当分この様な世相が続くでしょう。と言うのも皆が一緒に世の中を良くしようとしなくて、個人個人が自分の権利を主張する為で、権利義務が五〇%づつであることが理解できない教育を受けた人々が世の中心になって来たのが現在です。この様な時代は当分続くものと思われ

ます。
その後は現在の教育を受けている若い人達が、世の中へ出て新しい思想の社会を作るまでになって初めて良い社会が生まれるものと思います。しばらくご辛抱下さい。

それでは我々はどうすれば平安に生活出来るか考えてみましょう。卑怯な様ですが、この時代はあまり昔の常識を振り回さないで平凡な生活を目指さざるを得ません。と言うのは、相手が物の良し悪しの判断が出来ない人が多い為です。前に述べました様に権利の主張が八〇%位をもつて常識としている人々が多いので、他人から何か干渉されるとすぐ反省もなく、所謂「切れる状態」になって暴力を振う様になるのだと思います。どうか皆様、正義の精神の多い方でも単独では行動を起こさない様くれぐれもご注意下さい。私の現世代に対する独断的な考えですが、そんなに外れた見方ではないと思います。

新年早々この様な時代に対する対処法を皆様と共に考えねばならないとは思いますが、がんばりましょう。

全国大会報告

平成十七年五月十九日(木)／於：神戸メリケンパークオリエンタルホテル

今年の会場が位置しますメリケンパークは、そのシンボルでもある神戸ポートタワーや海洋博物館があり、港神戸を象徴するスポットです。ホテルは、このパークの最先端の海に面した所にあります。平成十四年の秋季例会がルミナス神戸の船上で開催された際に、当ホテル前からの発着であったのを懐かしく想い出されました。

大会は、柳田幹事が司会され、安東幹事長の開会の辞では、久方振りの出席になられる元日銀総裁速水優さんと元日商岩井社長西尾哲さんのご紹介があつて大会は始まりました。宴に先立ち、速水さんより近況のご活躍のことから、辰巳会が日本の産業を育んだ鈴木商店を忘れないで、ご立派にここまで続けられていることのお話が

ありました。

鈴木会長のご挨拶では、この大会が雨にあったことがないとの司会者の話に、十年前の新年会開催日が阪神大地震当日であつて、発生時間が遅ければ大変なことになっていたこと。辰巳会は、鈴木商店の古い時代を今に伝えるとともに、皆さんによって新しい楽しみもつくられていることに感謝され、鈴木商店に直接関係深かった先人の方々の築かれた努力に敬意を表されました。

引き続き、松下幹事の会務報告では、祥龍寺において本部幹事の参列で物故者法要の報告があり、この後、全員で黙祷しました。

宴に入るにあたり、西尾さんの発声で乾杯をしました。

会場は和やかに歓談が進み、大塚融さんのスピーチでは、永井幸太郎さんをはじめ、鈴木商店、日商などに深く関係した人物像のお話でした。また、本会に初めて出席される方の自己紹介では、嶋内義明さんは本会東京支部幹事をされた父義治さんについて、今に所蔵されている鈴木商店入社時の辞令を披露され、大日本塩業、羽幌炭鉱に勤務されたこと、次に藤野欽司さんは父隆治さんが明治末年に入社されたこと、また山地梓さんは同様に父孝二さんに繋がる話をされました。その他、神戸大学教授飯田文雄さん、最後に安東幹事長の安東節と、時間を忘れるほど盛り沢山のスピーチでした。

終りの時間も迫り、恒例であります金子孝蔵さんの小唄のあと、楠瀬幹事の閉会の辞があり、来年の再会を楽しみに会場をあとにしました。



平成十七年度 全国大会 式次第

平成十七年五月十九日（木曜日）

神戸メリケンパークオリエンタルホテル

五階 天空の間

司会進行役 柳田 本部幹事

一、開会の辞

安東 幹事長

一、会長挨拶

鈴木 会長

一、会務報告

松下 幹事

宴

一、乾杯

テーブルスピーチ

一、閉会の辞

楠瀬 本部幹事

以上

平成十七年度 全国大会 御出席者名簿

（敬称略）

平成十七年五月十九日（木曜日）

神戸メリケンパークオリエンタルホテル

五階 天空の間

金子 峻	金子 ソメエ	金子 孝蔵	小原 秀吉	小野 晶子	大塚 融	大谷 淳子	大谷 一二	飯田 文雄	池田 泰雄	安東 浄
速水 優	嶋内 義明	坂東 みどり	西尾 哲	東條 佳子	月岡 定康	高畑 美紀	高畑 宗一	鈴木 治雄	楠瀬 正明	貴答 恵子
以上 三十名	中谷 尚美	金野 和夫	（事務局）		山地 梓	柳田 辰巳	宮永 悠紀雄	松下 重男	藤野 欽司	福井 崇子



本部 新年例会

平成十七年度

新年例会御出席者名簿

平成十七年一月十九日(初)正午より

神戸三宮「第一楼」

(敬称略)

鈴木 治雄	鈴木 一誠	安東 浄
楠瀬 正明	鈴木 孝子	飯田 文雄
貴答 恵子	須藤 欽吾	池田 泰雄
金子 貞二	東條 佳子	今村 三郎
金子 ソメエ	坂東 みどり	小野 晶子
金子 孝蔵	松下 重男	小原 秀吉
金子 ソメエ	間室 四郎	金子 孝蔵
金子 貞二	宮永 悠紀雄	金子 孝蔵
金子 貞二	柳田 辰巳	金子 孝蔵
金子 貞二	(事務局)	金子 孝蔵
金子 貞二	金野 和夫	金子 孝蔵
金子 貞二	中谷 尚美	金子 孝蔵
金子 貞二	以上二十四名	金子 孝蔵



本部 秋季例会

神戸三宮から北野坂を登りきった右側に、洋館の建物が今回の会場である北野ガーデンです。周辺には、うるこの館や風見鶏の館などの異人館があり、多くの観光客が訪れる街です。辰巳会の例会としては、初めての雰囲気のかと思ひます。

秋の爽やかな晴天にめぐまれ、

開催時刻の正午には参加者全員が揃い、柳田幹事の開会で始まり、鈴木会長の挨拶となる。

鈴木会長からは、九月の衆議院選挙につながる政治世相の話をされ、政治家は依然として利権から脱却せず、国民の為の犠牲的な精神の覚悟が乏しいと具現を呈されました。

引き続き、須藤欽吾さんの参加皆さんの健康と長寿を祈念し乾杯をして、会食に入る。

全国大会をはじめ、各例会にご出席いただき、鈴木商店に繋がる非常に博識なお話をされる大塚融さんのスピーチを拝聴し、暫く歓談する。

安東幹事は、太平洋戦争における米國、ソ連の日本戦略について、戦中、戦後の動きを雄弁に語られました。帝人勤務をされた中宏さんの自己紹介があり、また、今回初めての参加になる西岡義久さんは祖父、父啓二さんが鈴木商店にお世話になっていたことと、自らの紹介がありました。最後に、

藤野欽司さんは、父隆治さんそして自らの今日の活動などの話をされました。

平成十七年度

秋季例会御出席者名簿

平成十七年十月二十四日(月)

北野ガーデン 二階

(敬称略)

鈴木 治雄	鈴木 一誠	安東 浄
楠瀬 正明	鈴木 孝子	飯田 文雄
貴答 恵子	須藤 欽吾	池田 泰雄
金子 貞二	東條 佳子	今村 三郎
金子 ソメエ	坂東 みどり	小野 晶子
金子 孝蔵	松下 重男	小原 秀吉
金子 ソメエ	間室 四郎	金子 孝蔵
金子 貞二	宮永 悠紀雄	金子 孝蔵
金子 貞二	柳田 辰巳	金子 孝蔵
金子 貞二	(事務局)	金子 孝蔵
金子 貞二	金野 和夫	金子 孝蔵
金子 貞二	中谷 尚美	金子 孝蔵
金子 貞二	以上二十八名	金子 孝蔵



東京支部 新年例会

平成十七年度

東京支部 新年例会御出席者名簿

平成十七年一月二十日(休)

東京ステーションホテル

(順不同・敬称略)

武岡 輝彦	鈴木 隆昭	西川 明子	荒木 正雄	池田 宗吉	澤田 浩三
以上十一名	荒木 義弘	移川 京子	森 美子	安東 浄	森 本雄三

今年は戦後六十年の節目の年にあたります。戦災で一面焦土と化した中から、わが国は見事に蘇り、平和主義と経済主義とで世界屈指の大国となりました。これまでの成功は真に世界に誇り得るものと思ひます。最近では少子高齢化や財政赤字の増大などで国の勢いが少し衰えているようですが、次の六十年もこれらを克服し、豊かな幸せ大国を実現したいものです。

今年の東京支部新年例会は一月二十日、昨年と同じ東京ステーションホテルの松の間で行われました。支部長の荒木様から今年の世界の平和と安全、会員各位の健康と幸福をお祈りしますと開会のご挨拶があり、続いて幹事長の安東様が辰巳会会長の鈴木治雄様が米寿を迎えられたことと同氏が取締役会長を務められている太陽鉱工が史上最高の好業績を挙げておられることを披露された後、このところ辰巳会の会員の高齢化が著しいので若い方々に大勢加わって欲しいと希望を述べられました。

武岡様の力強いご発声で一同乾杯のあと、食事が運びこまれ、いつものように自由に歓談の時間となりました。

しばらくの後、日本製粉の会長でいらつしやる澤田様から次のようなお話がありました。数ヶ月前、東京大学の薬学部で学生に企業におけるバイオサイエンスの取り組みについて講演する機会があり、その中でご自身の会社が時代とともに大きく変わってきていることを話されたところ、これを聞きつけた文芸春秋社に月間誌の巻頭随筆に執筆を依頼され、その十二月号に「当代中食談義」と題して一文を草し、その中で最近流行りのデパートの地下やホテルの惣菜類について外国と日本との間には意外に好みの違いがあることなどについても書きになったということでした。また、澤田さんは会社の紹介にバイオサイエンスのBから弁当のBまで取り扱う会社、つまりフロムBツーBと説明されるとのことと、これがよく通じる



とおっしゃいました。また澤田さんの会社は戦前中国に五つの工場を持っておられましたが、戦後は昨年十一月に初めて上海で全額出資の工場を立ち上げられたそうです。そしてその工場に戦前上海工場の責任者であった方の奥様90歳を超えるご高齢を近々お連れするのを楽しみにしておられるということと、大変いいお話だと思ひました。

その後、ご参加の方々から最近の中国の目覚ましい発展振りとその

影の部分などについて、また他の内外の話題についてもいろいろお話があり、いつもながら大いに教えられるところがありました。

予定の時間になりましたので、皆さん一緒に記念写真を撮っていただき、散会となりました。

ホテルのお話ではここは来年四月に東京駅の大改修のため長期休業に入り、新装オープンは二〇一年になるそうです。改修に当たっては外観、内装ともできるだけ元の姿を残すようにするとのことでした。鈴木商店が定宿として利用し、辰巳会として極めて縁の深いこのホテルがどんな姿で蘇るか楽しみです。

東京支部春の例会

平成十七年度東京支部の春の例会は六月九日帝国ホテルで開かれました。どなたでもご存知のこのホテルの歴史をちよっとひもといてみますと、創設は一八九〇年（明治二十三年、当時の外務卿



井上馨や財界の渋沢栄一等が中心となって、初めての外人賓客用の宿泊施設として建設されたとあります。手狭になったため、一九一六年建てかえと決まり、有名な建築家フランクロイドとその弟子達によって七年の歳月を費やして新館が完成するや世界的な名声を博しました。現在の本館はその跡に一九七〇年に建てなおされたものです。

本日の会場はホテル内にあるレストラン「レ・セゾン」。全面改

装の上、先月リオープンしたばかりとのことで、明るい色調の中に上品な調度品がしつらえられて大変落ち着いたよい雰囲気でした。

いつものように支部長の荒木様が開会のご挨拶を述べられ、またご出席の澤田様（日本製粉会長）が春の栄典で旭日中綬章をご受章になられたことを披露され、祝意を表されました。澤田様は個人的には恐れ多くて辞退したいお気持ちだったが、最近は企業の不祥事が続いていることもあり、会社の潔白の証しとしてお受けさせていただきますましたとお応えになられました。

続いて幹事長の安東様が神戸本部よりの報告として、五月中の行事として五月九日に祥龍寺において物故者（一二〇三名）の法要が行われたこと、又、十九日には全国大会が神戸メリケンパークオリエンタルホテルで盛大に行われたこと、当日は久しぶりに速水様、西尾様のご出席くださいされ、全員拍手でお迎えし、一日快楽の会合で

あった由のご報告をいただきました。その機会に神戸まで足を伸ばし辰巳会の全国大会で、会員の皆さまと親しく歓談できてよかったこと、また芦屋で育ち、昔の神戸近辺をよくご存知だけに震災後の変わりようには大変驚いていらっしゃるなどのお話がありました。会食が進む中で、安東様が速水様に現在の日本にとって財政の健全化が最大の問題であるが、この問題はどのように解決されるだろうかとお質問されたのに対し、速水様は概要次のようにお話しになった。

「国債残高だけで六百兆円にのぼる財政赤字の要因は九十年代の不況の時期に公共投資など財政出動して景気を支えたためである。小泉首相は強いリーダーシップで構造改革を推し進め、できる限り小さな政府を実現することに真剣に取り組んで来ており、少しずつ効果は出ている。役所や利益団体に根強い抵抗はあるが、いろいろな面で随分変わって来ている。未だ

政府系の金融機関が十一もあるのは先進国のなかで異常であり、引き続き小泉改革を着実に進めて行く他ない。」

更に速水様は「日本にとって喜ぶべきことは、円が世界の信頼を得ているということである。円のレートは三十数年の間に一ドル三十六〇円から一〇〇円程度まで切り上がったが、今の水準でも非常に安定している。これは貿易収支の黒字に加え、最近はその所得収支も海外投資の配当の増加などで黒字化しているの経常収支黒字が十七兆円（GNPの三％）にも達しているためで、こんな国は世界にない。一部で円が「高い」のは困るというがこれは誤解である。円が「高い」というより、円が「強い」と表現するほうが分かりよいではないか。円が強くなるということはそれだけ購買力が増し、わが国の経済が強くなることに他ならない。このようなことを近日発売の月刊誌「VOICE」七月号に書いてみた。」とも述べられました。

（速水様はこのことについて、今年三月東洋経済社より出版されたご著書「強い円 強い経済」の中にも触れておられます。）

いつものように歓談の輪は、最近の内外の話題を巡ってさまざまな広がりを見せ、どれも有益なお話でありましたが、特に記憶に残るものとしては、わが国の企業会計制度などの改定について

澤田様は最近制度の改定が続き、しかも待ったなしの性急さであったため、いろいろな混乱が起こっていること、これが会計事務所の間にも見解の相違を生み、税務署対策などを一層難しいものになっていること、また、ホールディング・カンパニーがやたらと増え、実質的に業績の核である子会社の実態の隠れ蓑になっているケースも出てきていることなどを指摘になりました。

中国問題に関し

支部長の荒木様が日本の対応は遅く、また弱腰過ぎる、石油開発

の例を見ても中国に牛耳られているとの印象が強いと述べられました。澤田様は最近、上海に加工工場を作ったが、中国は制度上の不備もありリスクが多い、例えば手形が不渡りとなっても銀行取引は停止とならないので、不良債権を作らないように注意しているなどお話になりました。また、速水様は急発展の結果として石油も水も原材料も足りない状態であり、また環境問題も深刻である、日中関係では競争よりも協力・協調の精神が必要、一例として王子製紙が中国で植林事業を行っており、これは日中友好に貢献しているなど述べられました。

予定の時間となったところで、会場の一角で記念写真を撮ってもらいました。幹事の方から、次回十月に予定される秋の例会で、またお会いできますようにとの言葉で閉会となりました。

東京支部秋の例会

東京支部の秋の例会は十月二十日に開催されました。

昨年に続き今年も台風の当たり年で、二十号の関東直撃が心配されましたが、幸い東にそれ、当日は台風一過の上天気でした。

会場は「ざくろ京橋店」、東京駅から五分程の所にある味で評判のお店です。

定刻には皆さまがお揃いになられ、まず会場の一角に集まって記

平成十七年度 東京支部 春の例会御出席者名簿	
平成十七年六月九日(木) 帝国ホテル「レ・セゾン」 (順不同・敬称略)	
澤田 浩	武岡 輝彦
池田 宗吉	森本 雄三
荒木 正雄	安東 浄
西川 明子	森 美子
木村 隆昭	移川 京子
速水 優	荒木 義弘
速水 けみ	以上十三名

念の写真を撮ってもらいました。

今回は前日銀総裁の速水様、JR
東日本の住田様、日本製粉の澤田
様が揃ってご出席になられ、合計
で十二名のご参加でした。

いつもの通り、支部長の荒木様
から開会のご挨拶をいただいた後、
幹事長の安東様が会報「たつみ」
が再来年一月発行分で第七十号と
なるので、皆様からのご意見やで
さればご寄稿をお願いしたいとの
お話がありました。

武岡様のご発声で一同乾杯し、
会食となりました。

和気藹々の雰囲気の中で、秋の
旬の食材を使った和食のお料理を
いただきながら、小泉自民党の衆
院選大勝利、日本経済のデフレか
らの脱却期待、各界指導者の倫理
観などホットな話題に関するいろ
いろな角度からのご意見をお伺い
しているうちに、瞬く間に予定の
時間が過ぎました。

最後に事務局から新年例会につ
いて報告があり、ご出席の各位そ
れぞれ再会を約し合ってお開きと

平成十七年度
東京支部 秋の例会御出席者名簿

平成十七年十月二十日(木)

ざくろ京橋店

(順不同・敬称略)

速水優	池田宗吉
速水けみ	荒木正雄
西川明子	武岡輝彦
森美子	木村隆昭
住田正二	澤田浩
安東浄	荒木忠男
	以上十二名

辰巳会 会員だより

学友「堀内信生君」を紹介します。

柳田 辰巳

辰巳誌六十九号より首記堀内信
生君に無理を御願ひして、生物学
の最先端技術を連載執筆して戴く
事と成りました。ここで同君の経
歴を紹介したいと存じます。同君
と小生は岐阜高等農林の農芸化学
科時代学友として机を並べた仲で
す。今年彼は文芸社よりユーモア
溢れる最新生物学の「人間と言っ
名の動物」を出版しました。同本
中の経歴を次に引用致します。

大正十五年長野県塩尻市生まれ
昭和二十七年東北大学理学部卒
同年三共(株)入社 昭和五十
六年同社退社

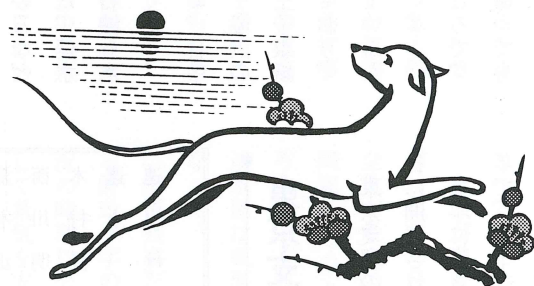
(この間に昭和三十六年農学博
士号獲得)

同年北海三共入社 平成八年同
社退社

森に暮らして(1)

堀内 信生

東京から中央高速を走ってくる
と約二時間、車の右側の車窓にキ
ラキラと湖面を輝かせて光ってい
る諏訪湖が見えてくる。数年前ま
でアオコの発生で淀んでいた湖も、
最近は環境整備のお陰で、だいぶ
綺麗になったようだ。高速は諏訪
湖の左側を大きく迂回して、本州
中央の分水嶺の山並みにぶつかる。
この分水嶺を境にして、水が南に
流れれば天竜川に合流して太平洋
に、北に流れれば信濃川に合して
日本海に注ぐ。中央高速はこの山
並みにぶつかる手前で、二つに分
かれ、左に進むと伊那谷に入り、
伊那、飯田を経由して名古屋に至
る。右側に進むと、分水嶺の山並
みをトンネルで抜け、松本平に通
じている。その道は塩尻、松本を
經由して長野に向かっていく。
私の暮らす塩嶺高原は、この分
岐点で松本方面に向かい、一番初
めのインターである岡谷インター
で下りる。そこから国道二十号線



に出て塩尻峠に向かう。塩尻峠は
車道の最高点が標高一〇一二メー
トル。ここは昔、明治天皇が行幸
の折、乗物から下りて景色を眺め
られたとのこと、
と呼ばれ、それを記念する石碑が
建っている。

たしかにここは目の下に諏訪湖
が眺められ、八ヶ岳連峰と南アル
プス連峰の間に、天気が良いと、
ひととき高く富士山が拝める。峠
を下りること約一キロ、左折して
カラマツ林を車で約十分も登ると、
そこが塩嶺高原と呼ばれる台地で
ある。標高は約千メートル、百年
を越す赤松の疎林のなかにカラマ
ツ、ニセアカシア、ヤマザクラ、
シラカバ、クヌギ、ナラなどの落
葉樹が繁り、林もこれだけ成熟す
ると林内は灌木の繁る余地はなく、
林床は十センチ程度のササが生え
ていて、きわめて歩きやすい混交
林である。
この塩嶺高原の面積は約八十万
平方メートル、それに上下水道完
備の山荘約三百戸が建っている。

しかしほとんど夏期用の住宅のた
めか、人影はない。この一帯は、
いつの頃からか狩猟禁止区域となっ
ていて、実に鳥獣が多い。

私にもう少し鳥の区別がつけば
と嘆いているがカッコウ、ウグイ
ス、ホトトギス、キジを始めとし
て、あと十数種の鳥が鳴いている。
獣の方もリス、ウサギ、カモシカ、
イノシシさらに塩尻峠には「クマ
出没注意」の看板まで立っている。
北海道の山歩きではよく注意され、
クマ避けのスズをつけて歩いたが、
ここでもそのスズが役立つとは思っ
ても見なかった。しかし、内地の
クマはツキノワグマであろうから、
ヒグマほど猛猛ではないだろうと、
たかをくくって平気で歩いている。
それにしても昔は、この辺にカモ
シカがいたり、クマがいたりする
ことはなかったはずだが、先日
もペランダで本を読んでいると、下
の藪でガサガサ音がする。ふと見
るとカモシカが一頭、悠々と藪を
横切っていた。我々の子供の頃
は、カモシカと言えば北アルプス